

分科会活動報告

「環境過敏症分科会」活動報告書（2019年度）

北 條 祥 子

東北大学大学院歯学研究科（尚絅学院大学名誉教授）

1. 分科会メンバー（39名、2020年3月1日現在）

代表：北條祥子（東北大学大学院）

副代表：水城まさみ（独）国立病院機構盛岡医療センター

委員（*幹事）：*黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院）、*水越厚史（近畿大学）、*黄琳琳（台湾正修科技大学）、*渡井健太郎（独）国立病院機構相模原医療センター）、*角田和彦（かくたこども & アレルギークリニック）、*中里直美（国際医療福祉大学熱海病院）、相澤好治（北里大学名誉教授）、青木真一（秋田協立歯科医院）、石川哲（北里大学名誉教授）、池田耕一（日本大学）、岩崎由美子（総合地球環境学研究所）、上田厚（NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワークセンター）、奥村二郎（近畿大学）、上田昌文（市民科学研究室）、内山巖雄（京都大学名誉教授）、大澤 稔（東北大学病院）、小倉英郎（高幡会大西病院）、木村一黒田純子（環境脳神経情報センター）、近藤加代子（九州大学）、坂部 貢（東海大学）、鈴木高弘（東北大学）、鈴木珠水（帝京大学）、平久美子（東京女子医科大学）、高塚俊治（岡山駅前歯科診療所）、高野裕久（京都大学）、土器屋美貴子（大分大学）、東門田誠一（尚絅学院大学）、徳村雅弘（静岡県立大学）、西影京子（よこはまにしかげ小児科・アレルギー科クリニック）、乳井美和子（そよ風クリニック）、星野陽子（足利市立北郷小学校）、松井孝子（秋田大学）、宮田英威（東北大学）、宮田幹夫（そよ風クリニック）、柳沢幸雄（東京大学名誉教授）、山國 徹（東

北大学）、吉田貴彦（旭川医科大学）、吉野 博（東北大学名誉教授）

2. 2019年度活動概要

2-1. 第28回日本臨床環境医学会学術集会において、学際シンポジウム「環境過敏症の病態解明および発症予防をめざして」を開催（共催：室内環境学会環境過敏症分科会）

座長：加藤貴彦、小倉英郎

講演者：北條祥子、篠永正道、黒岩義之、渡井健太郎、水城まさみ（小倉氏が代読）、上田厚

総会討論：上記6名の講演者と会場の参加者との間に活発な議論が行われた。

参加者：約70名（メンバー45名他、マスコミ取材2件あり）

2-2. 意見交換会

2019年6月23日（日）17：30-18：30

上記終了後、場所を移動し、今後の活動方針の審議を行った。参加者32名。

2-3. 市民公開講座「子どもの健全な発達と成長のために大事なことは」を開催

共催：室内環境学会環境過敏症分科会、生活環境と健康研究会、協賛・後援：宮城県保険医協会、早稲田大学応用脳科学研究所、NPO 法人市民科学研究室、NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワーク、NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

日時：2019年9月16日（月・祝日）

12:10-15:40

場所：明治大学駿河台キャンパス リバティータ
ワー1135教室

企画・座長：北條祥子、黒岩義之、寺田良一

- ・星野恭子（昌仁醫修会瀬川記念小児神経学クリニック）：小児神経学専門医の立場から
- ・木村一黒田純子：基礎脳科学研究者の立場から
- ・小倉英郎：環境過敏症専門外来小児科医の立場から、角田和彦：臨床環境医学専門医の立場から、上田厚：社会医学者の立場から、黒岩義之：脳神経内科医の立場から

参加者：71名（会員参加者15名、会員以外の参加者53名、マスコミ取材2件あり）

2-4. 勉強会・意見交換会の開催（市民公開講座の前後に開催）

開会の挨拶：北條祥子

勉強会

- ・浦野真弥：化学物質と子どもの健康を考える～環境工学の視点から

意見交換会

- ・寺田良一：環境過敏症を「社会問題」としてどう構築するか
- ・平久美子：臨床環境医の立場からの提案—環境過敏症の概念を確立し診療ガイドラインの作成により医療従事者の理解を高める—慢性疼痛に学ぶ
- ・水越厚史：“環境過敏度評価用簡略版問診票”の作成
- ・上田昌文：市民科学研究者の立場からの提案
- ・東門田誠一：環境過敏症の学生が活躍できる大学の実現に向けて
- ・星野陽子：一般市民に対する環境過敏症の認知度向上のための提案
- ・中里直美：病院薬剤師の立場からの提案
- ・新城有布：大学院に進学してやりたいこと
- ・柳田徹郎：患者としての経験を生かしてやりたいこと
- ・岩崎由美子：患者としての経験を生かしてしたいこと
- ・平井利明／黒岩義之：HPV ワクチン接種後に

生じる環境過敏症等の解明に向けて：他覚的検査所見を中心に

- ・渡井健太郎：日本人の環境過敏症における遺伝的要因の解明—網羅的遺伝子解析研究（中間報告）
- ・山國 徹：薬学研究者の立場から—環境過敏症の発症メカニズム解明のための基盤研究
- ・紙上参加（資料配布のみ）：水城まさみ、宮田幹夫、小倉英郎、乳井美和子、医師に向けた「環境過敏症患者への対応マニュアル」の作成；鈴木高弘、化学物質過敏症・電磁過敏症とアレルギー疾患合併の関連性に関する調査研究～副作用等の健康被害を事前に予測するアルゴリズムの確立～；黄琳琳、園児への健康影響を想定した気中濃度測定を検討 - 台湾孝雄市内の保育園の実測結果をふまえた考察

上記終了後、場所を移し交流会を開催、今後の活動について審議した。参加者18名。

2-5. 意見交換会

日時：12月6日（金）17:00-21:00（2019年度室内環境学会学術集会終了後）

場所：沖縄県市町村自治会館4階 第一会議室

- ・黒岩義之：視床下部集積回路から環境過敏症の謎にせまる
- ・加藤貴彦：当教室で実施してきた環境過敏症研究と今後の研究方針
- ・北條祥子：共通問診票を用いた環境過敏症の病態解明・発症予防対策検討の多面的調査の提案
- ・水越厚史：環境過敏度評価用質問票の作成とそれを用いた調査
- ・星野陽子：教育現場における環境過敏症に関する認知度向上のための提案
- ・黄琳琳：子供達の健康保全が維持できる室内環境の検討
- ・近藤加代子：小学生の身体症状および行動特性と生活環境要因との関連についての調査
- ・柳田徹郎：CS患者としての経験を生かした“皆が健康で過ごせる環境づくり”の提案

審議：今後の両学会の環境過敏症分科会の役員体制と活動方針について審議した。

その後、場所を移し沖縄料理を会食しながら交流会を開催した。参加者10名。

3. メーリングリストによる情報提供と意見交換

各研究者の研究成果の紹介、環境過敏症関連情報（香害、子どもの行動障害、スマホ依存症、5Gによる電磁波障害について等）、時事問題（例：コロナウイルス対策情報など）。

4. 今後の環境過敏症分科会の活動方針

- 1) 学術集会には、各メンバーの日ごろの研究成果を発表し、意見交換を行う。
- 2) 室内環境学会環境過敏症分科会との連携をとりながら、双方の学会の研究がより充実するように活動する。
- 3) 両学会の学術集会時以外に、できれば、年1回以上会合をもち、テーマを決めて研究者同志で学際的意見交換を行う。また研究費を獲得し共同研究ができるようにする。
- 4) メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報・文献および現状に関する調査結果などの情報交換・共有し、メンバーが分担して整理する。
- 5) 1年間の活動内容をまとめて、翌年の両学会の学術集会時に発表する。
- 6) 社会貢献活動として、本分科会の研究成果を、“専門家向け環境過敏症発症予防に関する学際的な報告書”および“市民向けの環境過敏症発症予防対策マニュアル”を作成して公開することをめざす。